



平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社トライアイズ
 コード番号 4840 URL http://www.triis.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 均
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 小出 美紀 TEL 03-3221-0211
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	1,354	23.6	△27	—	3	—	119	—
28年12月期第3四半期	1,095	△39.5	△223	—	△299	—	△336	—

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 176百万円 (-%) 28年12月期第3四半期 △385百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	14.07	13.35
28年12月期第3四半期	△38.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期第3四半期	6,054	5,095	81.9	587.92
28年12月期	5,860	5,083	84.1	578.41

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 4,957百万円 28年12月期 4,929百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00
29年12月期	—	0.00	—	—	—
29年12月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,819	15.2	△130	—	△94	—	117	—	13.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名） 除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期3Q	9,500,000株	28年12月期	9,500,000株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	1,066,920株	28年12月期	978,220株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期3Q	8,471,713株	28年12月期3Q	8,785,259株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀の政策を背景に雇用状況及び企業収益に改善が見られ、緩やかな改善基調が継続しております。

一方で米国新政権の政策動向、中国をはじめとする東アジアの経済動向及び緊迫化する北朝鮮情勢などの世界経済の不確実性により、先行き不透明な状況が継続しております。

このような経済環境のなか、トライアイズグループは、景気変動の影響を受けない企業グループとして、小さくとも知性を使って、その世界ではNo. 1となり光る企業グループを目指すという方針のもと、「イノベーションによるコスト優位の確立」を最重要目標とし、売上が減少しても黒字化できる体質づくりを続けており、営業利益、経常利益及び最終利益の黒字化(いずれも連結ベース)を目指しております。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,354百万円(前年同期比23.6%増)、販売費及び一般管理費は643百万円(前年同期比7.9%減)と更なる削減を実現しており、営業損失は27百万円(前年同期は223百万円の営業損失)、経常利益は3百万円(前年同期は299百万円の経常損失)、税金等調整前四半期純利益は242百万円(前年同期は302百万円の税金等調整前四半期純損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は119百万円(前年同期は336百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)といずれの利益も前年同期を上回る結果となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりです。

(建設コンサルタント事業)

建設コンサルタント事業においては、従来型ダム関連業務、河川防災・減災対策業務および海岸保全業務を中心に受注しました。前期からずれ込んでいた大型案件の完成を取り込んだものの、当期受注案件に対応する人員体制の整備が遅れ、当期計上予定案件が来期にずれ込む見込みとなり、売上高及び営業利益が当初の予想を下回ることとなりました。今後も発注比率が高まっている防災・減災対策関連業務やダム、河川構造物、海岸・港湾分野の維持管理を中心とした継続性の高い業務の受注シェア拡大を継続し、収益の改善を図ります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は770百万円(前年同期比58.9%増加)47百万円の営業損失(前年同期は254百万円の営業損失)となりました。

(ファッションブランド事業)

ファッションブランド事業においては、Eコマースによる消費は拡大しているものの、個人消費の節約志向は依然として強く、引き続き厳しい経営環境となりました。そのような環境の中、東京ブラウス㈱ではブランドCLATHASについて、新たな顧客を獲得するため、今後成長が見込める販路の開拓を継続して進めております。また、台湾現地法人の拓莉司国際有限公司においては、現地パートナーと新しい商品開発を進めており、国内外を問わず、ライセンス事業の強化による収益の拡大を図ります。

濱野皮革工芸㈱については、ブランド価値を向上させるための施策及び原価低減等生産性向上のための施策に継続的に取り組んでおりますが、百貨店向け売上高が当初の予想を下回ったため、売上高及び営業利益が当初の予想を下回ることとなりました。

そのため、当第3四半期連結累計期間の売上高は532百万円(前年同期比12.3%減)、営業利益は0百万円(前年同期比99.6%減)となりました。

(投資事業)

投資事業においては、引き続き米国の子会社TRIIS INTERNATIONAL AMERICA INC.において、住居用物件と工業用物件の賃貸をしております。このほか、商業用物件の取得についても継続して検討しております。

投資事業は前第2四半期連結会計期間より開始しており、当期は第1四半期連結会計期間からの売上計上となった結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は51百万円(前年同期比1,159.5%増加)、営業利益は9百万円(前年同期は16百万円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ193百万円増加し、6,054百万円となりました。これは主に、「現金及び預金」が755百万円増加しましたが、「土地」及び「のれん」がそれぞれ421百万円、106百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ180百万円増加し、958百万円となりました。これは主に、「前受金」、「未払法人税等」及び「賞与引当金」が56百万円、165百万円及び49百万円増加した一方で、流動負債「その他」及び固定負債「その他」がそれぞれ52百万円、53百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ12百万円増加し、5,095百万円となりました。これは主に、利益剰余金16百万円の増加、自己株式30百万円の増加及び為替換算調整勘定56百万円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、平成29年9月15日に公表しました通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,538,093	3,293,253
受取手形及び売掛金	125,438	99,836
有価証券	-	82,910
商品及び製品	229,927	208,071
仕掛品	185,572	159,338
原材料及び貯蔵品	44,538	50,198
繰延税金資産	44,442	44,609
その他	154,876	111,195
貸倒引当金	△7	△8
流動資産合計	3,322,881	4,049,405
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	754,730	749,121
土地	1,178,220	757,194
その他(純額)	16,069	14,162
有形固定資産合計	1,949,021	1,520,477
無形固定資産		
のれん	174,834	68,804
その他	44,974	39,654
無形固定資産合計	219,808	108,459
投資その他の資産		
投資有価証券	175,387	191,032
その他	211,157	203,124
貸倒引当金	△17,328	△17,885
投資その他の資産合計	369,216	376,271
固定資産合計	2,538,046	2,005,208
資産合計	5,860,928	6,054,614

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	54,372	49,253
1年内返済予定の長期借入金	5,605	6,040
未払法人税等	13,996	179,612
賞与引当金	—	49,192
受注損失引当金	19,936	18,061
返品調整引当金	4,168	2,742
前受金	204,805	261,190
その他	155,085	102,611
流動負債合計	457,971	668,704
固定負債		
長期借入金	204,114	210,252
資産除去債務	20,648	38,034
その他	94,999	41,664
固定負債合計	319,762	289,952
負債合計	777,734	958,656
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000,000	5,000,000
資本剰余金	1,098,485	1,084,435
利益剰余金	△761,649	△744,752
自己株式	△337,274	△368,120
株主資本合計	4,999,560	4,971,562
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△70,500	△13,594
その他の包括利益累計額合計	△70,500	△13,594
新株予約権	154,134	137,989
純資産合計	5,083,194	5,095,957
負債純資産合計	5,860,928	6,054,614

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1,095,580	1,354,112
売上原価	620,166	737,516
売上総利益	475,413	616,595
販売費及び一般管理費	699,038	643,856
営業損失(△)	△223,624	△27,260
営業外収益		
受取利息	8,664	16,514
投資有価証券清算分配金	9,898	6,088
不動産賃貸収入	13,477	12,623
その他	8,108	10,165
営業外収益合計	40,149	45,391
営業外費用		
支払利息	—	5,117
デリバティブ評価損	—	1,445
投資有価証券売却損	5,689	—
有価証券売却損	44,749	—
不動産賃貸原価	4,621	5,740
支払手数料	338	642
為替差損	60,427	23
その他	422	1,345
営業外費用合計	116,249	14,314
経常利益又は経常損失(△)	△299,724	3,816
特別利益		
固定資産売却益	—	247,875
特別利益合計	—	247,875
特別損失		
減損損失	2,811	8,855
その他	305	56
特別損失合計	3,116	8,911
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△302,841	242,780
法人税等	33,629	123,621
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△336,470	119,158
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△336,470	119,158

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△336,470	119,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35,812	—
為替換算調整勘定	△85,028	56,905
その他の包括利益合計	△49,215	56,905
四半期包括利益	△385,686	176,063
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△385,686	176,063
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	484,614	606,872	4,093	1,095,580	—	1,095,580
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,202	—	1,202	△1,202	—
計	484,614	608,074	4,093	1,096,782	△1,202	1,095,580
セグメント利益又は損失(△)	△254,568	19,472	△16,609	△251,705	28,080	△223,624

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額28,080千円には、セグメント間取引消去16,877千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額11,203千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で2,811千円を計上しております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、TRIIS INTERNATIONAL AMERICA INC. を設立し、連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日と比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「投資事業」において1,043,898千円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	770,272	532,281	51,558	1,354,112	—	1,354,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	2,201	—	2,201	△2,201	—
計	770,272	534,482	51,558	1,356,314	△2,201	1,354,112
セグメント利益又は損失(△)	△47,510	87	9,854	△37,569	10,308	△27,260

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額10,308千円には、セグメント間取引消去17,805千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額△7,497千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で2,874千円、「投資事業」で5,981千円を計上しております。